

1	組織名称(略称)	FIWARE Foundation https://www.fiware.org/			
2	分類	活動目的	実装仕様化・相互接続性検証	対象分野	サービス(スマートグリッド関連)
	技術MAP	活動エリア(注1)	0	活動技術(注2)	1
3	目的	欧州FP7プロジェクトの一つであるFI-PPP (The Future Internet Public-Private Partnership)で開発されたスマートアプリケーション基盤のFIWAREの普及を民間主導で推進するために設立されたドイツの非営利団体。創設メンバは、Atos(仏)、Engineering(伊)、Orange(仏)、Telefonica(西)の4社。			
4	組織構成	経営機関のBoard of Directors (BoD)と執行機関Board of Officers (BoO)の配下に、技術検討委員会(Technical Steering Committee)と分科会(Mission Support Committees)をもち、意思決定機関としては総会(General Assembly)がある。			
5	参加資格費	4レベルの会員資格、プラチナ(PM)、ゴールド(GM)、個人(IM)、アソシエイト(AM)のほか、特別会員資格としてユーザ企業向けにSTRATEGIC END USER MEMBER (SEU)があり、プラチナとゴールドの種別がある。 PM: 200K€ + 2名のフルタイム当量が必要。加入は2年をコミット。 PSEU: 100K€ + 1名のフルタイム当量が必要。加入は2年をコミット。 IM: 会費は無料。ただし実稼働のある個人に限定。 GM: 年間売上の0.025%相当(2.5~50K€の範囲内)。加入は2年をコミット。 GSEU: 年間売上の0.0125%相当(1.25~25K€の範囲内)。加入は2年をコミット。 AM: 非営利団体限定。1K€			
6	主要メンバー(2017年11月現在) (注3)	主要メンバー: プラチナメンバー5社(Atos(仏)、Engineering(伊)、NEC、Orange(仏)、Telefonica(西)) うち日系企業1社: NEC GM: 12社、GSEU: 5社、Associate: 11社 会員数: 28社、個人会員78名 うち日系企業数: 1社			
7	他団体・組織との関係	TM Forumなど。 公式発表はなく不明だが、FIWARE Foundation関連イベントとしてホームページに掲載。			
8	TTC活動との関連性 (注4)	■TTCの専門委員会活動と関係あり 対象専門委員会: IoT/SC&Cアドホック □なし			
9	活動状況	(発行ドキュメント・ソフト、会合開催状況など) 分科会レベルの活動状況は非公開のため不明。欧州開催のスマートシティやIoT関連のカンファレンス等に展示やセッションでの参加。 年次総会のほか、普及イベント(FIWARE Roadshow や FIWARE Workshop)を年間数回開催。			
10	設立時期	2011年 (法人登記時期は不明)			
11	本部所在地	Franklinstrasse 13A. 10587 Berlin, Germany			
12	関連標準化技術	FIWAREはIoT用ソフトウェア基盤で、OSSとして実装およびAPIが公開されている。実装内容(主な機能)は以下の通りで、詳細は https://catalogue.fiware.org/enablers に一覧として公開されている。 FIWARE Generic Enablers (GE) Data/Context Management Internet of Things (IoT) Services Enablement Advanced Web-based User Interface Security Interface to Networks and Devices (I2ND) Architecture of Applications / Services Ecosystem and Delivery Framework Cloud Hosting			

		このほか、使用分野ごとのセットもdomain-specific enablers (DSEs)として公開されている。
13	備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・定款 https://www.fiware.org/foundation/bylaws/s ・知的財産権取扱規則 定款にAssociation Codeに規定ありと言及されているが非公開。(入会申請時に確認できるものと推測される) ・規格に基づく製品の普及状況: 導入事例がSuccess Storiesとしてhttps://www.fiware.org/success_storiesに紹介されている。 Agrifood 10件 Clean Tech 3件 eHealth 11件 Energy & Environment 9件 IT 12件 Media & Content 8件 Smart Cities 21件 Social & Learning 7件 Transport 11件 Urban Security 1件
14	更 新 年 月	2017年 11月

(注1)活動エリアは以下から最も適当な項目を選択し、その番号を記入のこと。

- 2: モバイル系領域を中心に活動を実施
- 1: モバイル系領域の活動を主に、固定系領域の活動も実施
- 0: モバイル系、固定系の両領域にまたがって活動実施
- 1: 固定系領域の活動を主に、モバイル領域の活動も実施
- 2: 固定系領域を中心に活動を実施

(注2)活動技術は以下から最も適当な項目を選択し、その番号を記入のこと。

- 3: APL(アプリケーション)領域の活動を実施
- 2: APL領域の活動を主に、MDL(ミドルウェア)領域の活動も実施
- 1: APLとMDLの両領域の活動を実施
- 0: MDL領域の活動を実施
- 1: NW(ネットワーク)領域の活動を主に、MDL領域の活動も実施
- 2: NW領域の活動を実施
- x: 該当せず等

(注3)日系企業とは親会社が日本企業かどうかで判断する。

(注4)「TTC活動との関連性」とはTTCの専門委員会の活動と関連しているかを示す記載とし、理由には具体的な専門委員会名と関連している部分等を記載する。